

CONTENTS

TOPICS

- 新商品発表展示会
- 新商品発表展示会（名古屋）
- 富田美栄子社外取締役による社内講演会
- ファナックの工場紹介（壬生電子工場）
- ファナックの四季



新商品発表展示会 2023

5月15日（月）～17日（水）の3日間、本社自然館において「第32回ファナック新商品発表展示会」を開催しました。今年は新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」への移行後間もない開催となりましたが、約5,000名のお客様にご来場いただき会場内は盛況となりました。

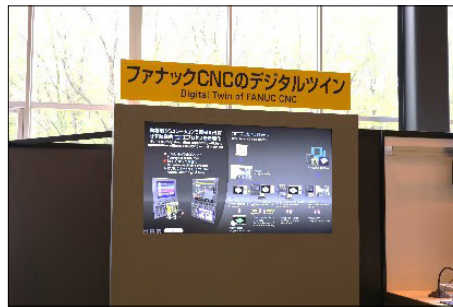
混雑緩和の為、ご案内時間も4グループ制とすることで、ファナックの最新の商品や技術をじっくりとご覧いただきました。



FA

FAコーナでは、「最新のCNC・サーボとデジタルツインによる加工プロセスの最適化」をテーマに、工作機械のさらなる生産性向上に貢献する新商品、新機能を紹介しました。

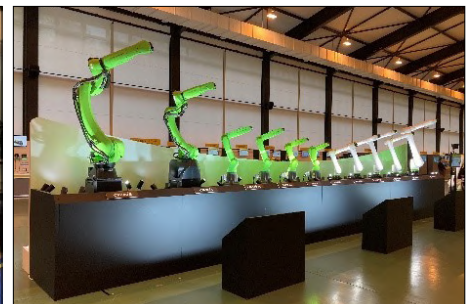
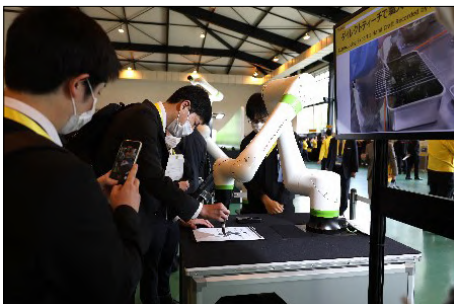
新CNCシステムのSeries 500i-A、 α i-Dシリーズサーボに加え、CNCのデジタルツインやIoTによる加工プロセスの進化に大きな注目が集まりました。



ROBOT

ロボットのコーナでは、初めてでも簡単に使えるファナックの協働ロボットをはじめ、新開発のハンドリングロボットなどの幅広いアプリケーションを紹介しました。

協働ロボットCRXの手先に付けた筆を手で持って半紙に文字を書くと、ロボットがその通りに動作するデモを多くのお客様に体験していただき、職人の手技をロボットで再現できそうだと好評でした。



ROBOMACHINE

ロボマシンのコーナーでは、「最新の市場ニーズに対応したロボマシン」をテーマに、ロボドリル、ロボショット、ロボカットの新機種と、ロボットを組み合わせた自動化システムを展示しました。

ロボドリルの新機種による適用範囲の拡大、ロボショットの省エネルギー化と環境対応、ロボカットのノズル開放加工の精度向上、等が好評でした。



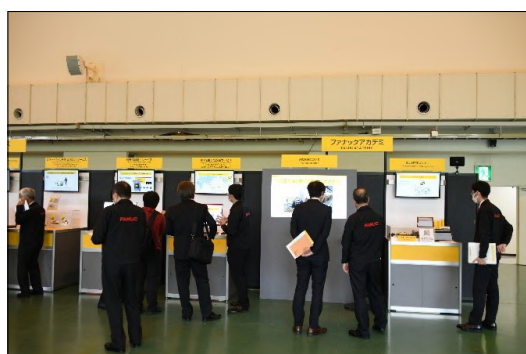
SERVICE

サービスでは、スマートフォンを使ったお問い合わせ機能の FabriQR Contact (ファブリキュア コンタクト)、生涯保守への取り組みが好評でした。



ACADEMY

アカデミーでは、研修施設と3つの研修スタイル(アカデミー講習会、ライブセミナー、オンデマンドセミナー)についてご案内し、理解を深めていただきました。



Sustainability

全社的なテーマとして、「ファナックのカーボンニュートラルへの取り組み」の壁面展示を行いました。ファナックのサステナビリティ基本方針の下、重要課題として全社的に取り組んでいるカーボンニュートラルへの取り組みに関して、その概要を具体的な取り組み事例と共にご紹介しました。



新商品発表展示会（名古屋）

6月14日（水）～15日（木）、愛知県小牧市にある名古屋支社のテクニカルセンタにおいて「ファナック新商品発表展示会（名古屋）」を開催いたしました。

期間中はあいにくの空模様でしたが、2日間で約2,000名のお客様にお越しいただき、大変活気に満ちた展示会となりました。

実際の製造現場でファナック商品を扱っておられる方々にファナックの最新の商品や技術をご覧いただき、ご評価、ご期待、ご意見など生の声をたくさん頂戴することができました。



富田美栄子社外取締役による社内講演会

5月23日（火）に本社ファナックフォーラムおよびオンラインにて、当社社外取締役の富田美栄子氏による社内講演会を実施しました。弁護士である富田取締役には「社員が担うコンプライアンス」をテーマとして講演いただきました。コンプライアンスを徹底するための内部統制システムの構築・運用、そして信頼の原則など多岐にわたる内容でした。

参加者はコンプライアンスを自分ごととして捉えることや、コミュニケーションによる信頼関係の必要性などを改めて認識しました。また、後日社内ポータルサイトに編集動画を掲載し、当日参加できなかった社員が視聴できるようにしました。



ファナックの工場紹介

壬生電子工場

CNCやサーボアンプの製造を行う壬生電子工場では、協働ロボットの活用による合理化を推進しています。

協働ロボットは、人には少し難易度が高い、また、単純作業で作業負荷の大きい工程で活躍しています。

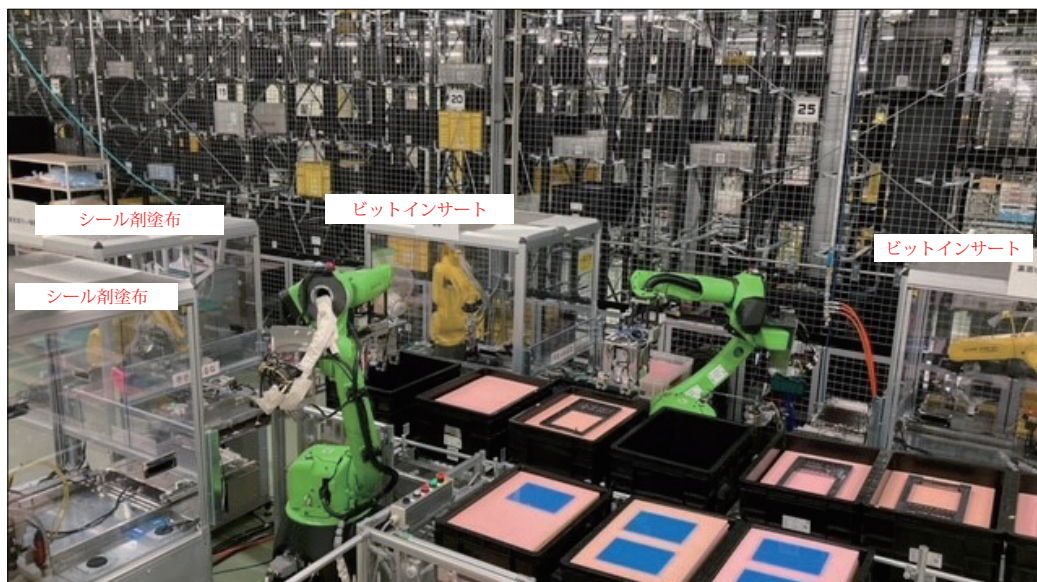
壬生電子工場には、2年前に立ち上げたロボット用6軸アンプ協働組立設備があります。

この設備ではこの間にロボット動作見直しによるタクトアップや、作業手順や作業動線の見直しなど改善を重ね、立上げ当初に比べて約10%の生産台数増となりました。

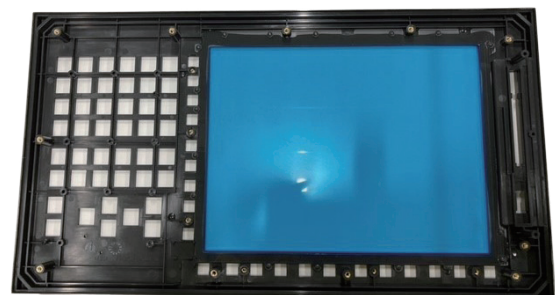
ここで最近の協働ロボットの活用例をご紹介します。

最初にCNC用LCDユニット組立ラインでの例です。この組立ラインの中で挿入高さの精度が厳しいビットインサート作業と、途切れ無く均一なシール剤塗布作業を協働ロボットとロボットモジュールで自動化を実現しました。ロボットモジュールへの部品の供給やモジュール間のワーク搬送を協働ロボットが行います。これら機能の違うロボットモジュール4台は、協働ロボット2台を取り囲むように配置されています。このラインでは作業者は部品の供給と対象ワークの取出しをするのみであるため、ロボットが作業している間は別の作業を行う、「活人化」を図ることができました。

また、協働ロボットは安全柵が不要であるため、人の作業エリアに近く配置することができ、省スペース化を実現しました。



LCDユニット組立ライン
(協働ロボット2台、ロボットモジュール4台)



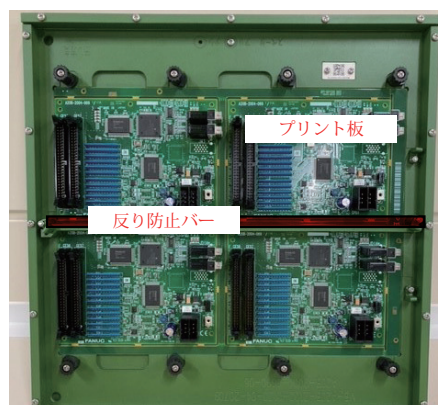
LCDユニット

次にプリント板の半田付けラインでの活用例をご紹介します。

このラインではプリント板に電子部品を挿入し、フロー半田という工法で半田付けを行います。パレットと呼ぶ治具に、プリント板を搭載、作業者が複数の電子部品を挿入します。挿入後に協働ロボットが反り防止バーを載せ、パレットに固定します。半田付け後には、今度は協働ロボットが反り防止バーを取外し、作業者がプリント板を取出します。この工程には従来2名の作業者を必要としましたが、1名で対応を可能としました。また、協働ロボットの補助により、作業者は部品挿入と半田付け後の簡易目視検査に集中することができています。



プリント板半田付けライン
(協働ロボット2台)



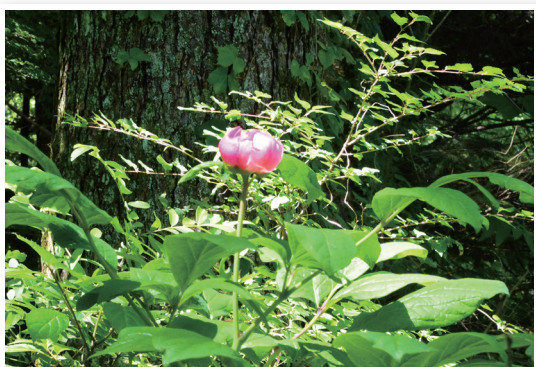
プリント板と半田付け用治具

壬生電子工場では、協働ロボットと作業者による工程を徐々に増やしています。

協働ロボットの出現で合理化に向けた選択肢が一つ増えました。ロボットが得意な正確な作業、また単純な繰返し作業、作業者が得意な小物部品の取扱いおよび検査など、ロボットと人、それぞれの特性を生かした合理化の手段として、さらに活用の幅を広げていきたいと考えています。また、今後の作業者の流動化による熟練作業者不足にも対応していきます。

ファナックの四季

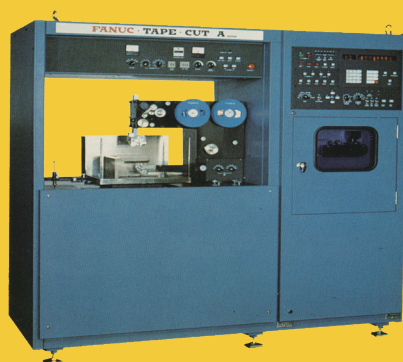
たくさんの花々が咲き誇る夏、ひっそりとファナックの森に色を添える、希少な花たちをご紹介します。



ベニバナヤマジャクヤク



ヤマタツナミソウ



ファナックの歴史シリーズ⑨

「FANUC TAPE CUT-SERIES A」

ファナックにおける最初のワイヤ放電加工機。

1975年に「機電一体型でコンパクト、しかも低価格な機械」をコンセプトに開発。工作機械らしい構造の加工機が主流であるのに対し、ファナックの加工機は機械全体をキャビネットに収めたコンパクトな外観で、他社にはないユニークなものであった。

名称の「TAPE」は、当時のNC装置が紙テープを読み取り動作する方式だったことに由来する。



ファナック株式会社

FANUC CORPORATION

〒401-0597 山梨県南都留郡忍野村忍草 3580
www.fanuc.co.jp